

協働体制検討WGでの検討状況 及び市民協働ワークショップの開催結果

(第2回 高田松原津波復興祈念公園有識者委員会 資料)

平成28年3月29日

1. 協働体制検討ワーキンググループの概要

○主な検討事項

- ・ 次期体制(準備会)移行に向けた体制の検討
- ・ 公園供用時の管理運営・市民協働体制の検討
- ・ 市民協働ワークショップの企画立案 ⇒市民協働ワークショップの“幹事会”としての役割

○委員名簿

(敬称略)

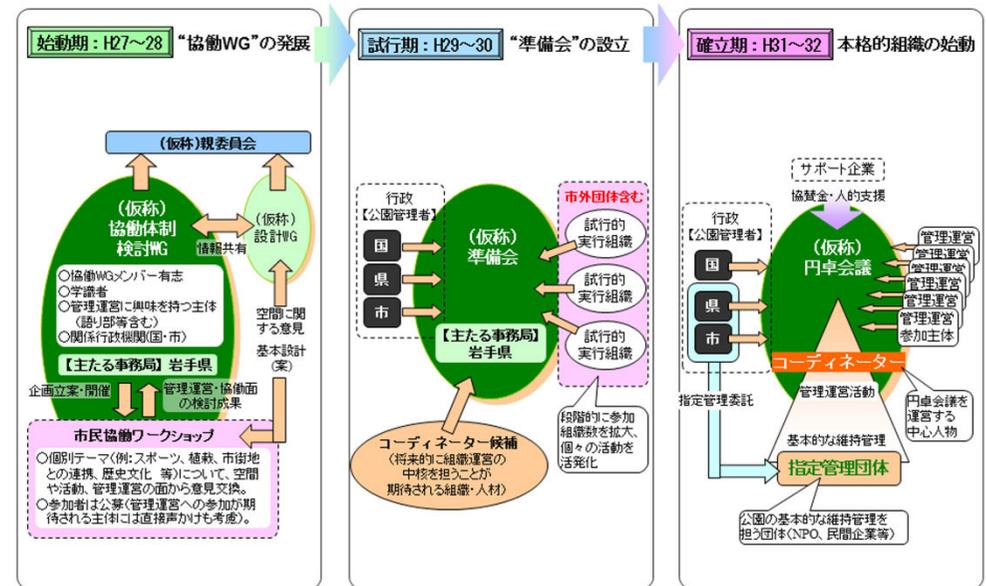
区分	氏名	所属・役職等
幹事	広田 純一	岩手大学農学部教授
副幹事	五味 壮平	岩手大学人文社会科学部准教授
委員	阿部 裕美	元陸前高田災害FMパーソナリティ
委員	石川 浩行	元一般社団法人 陸前高田青年会議所
委員	磐井 正篤	株式会社 いわ井
委員	岡本 翔馬	NPO法人 桜ライン311
委員	菅野 修	陸前高田市体育協会
委員	熊谷 政之	漁業
委員	種坂奈保子	陸前高田地域振興株式会社
委員	村上 幸司	陸前高田市企画部商工観光課
委員	吉田 和子	りくカフェ運営メンバー
委員	吉田 裕	今泉まちづくり協議会
委員	渡辺 雅史	横田地区コミュニティ推進協議会 ・高田松原を守る会

○事務局

岩手県県土整備部都市計画課
大船渡土木センター
陸前高田市

■管理運営体制の段階的な組織化のイメージ

会議・組織等の名称や内容は、基本計画策定段階のものであり、実際と異なる場合があります。



2. 検討スケジュール

有識者委員会【県】

平成27年8月5日開催

第1回有識者委員会

○検討方針(案)について

平成28年3月29日開催

第2回有識者委員会

○検討体制・スケジュール等について
○各委員会等検討状況について
○国営追悼・祈念施設(仮称)の基本設計(案)について

平成28年9月頃開催予定

第3回有識者委員会

協働体制検討

ワーキンググループ【県】

- 次期体制(準備会)移行に向けた体制の検討
- 公園供用時の管理運営・市民協働体制の検討
- 市民協働ワークショップの企画立案

平成27年9月11日開催

第1回WG

平成27年12月10日開催

第2回WG

平成28年3月16日開催

第3回WG

平成28年4月頃開催予定

第4回WG

状況に応じて開催

市民協働ワークショップ【県・市】

平成27年10月20日開催

第1回WS

○公園について知ろう!
自由意見交換

平成27年1月27日/31日開催

第2回WS

○どんな利活用ができるだろう?
4つのテーマに分かれて意見交換

開催日未定

第3回WS

○すぐ始められる取り組みを探そう!

3. 第1回協働体制検討ワーキンググループにおける主なご意見

日時:平成27年9月11日(金)18:30~21:00

9月12日(土)9:30~12:00(現地視察)

会場:陸前高田市役所 4号棟 第4会議室

出席者:広田幹事、五味副幹事、阿部委員、石川委員、磐井委員、岡本委員、菅野委員、熊谷委員、種坂委員、村上委員、吉田和子委員、吉田裕委員、渡辺委員



○第1回市民協働ワークショップについて

- ・第1回は平成27年10月20(火)、18:30~21:00(於市役所)を予定する(平日夜の開催の方が市民は集まりやすい)
- ・会の名称は、単に「ワークショップ」ではなく親しみある名前(キャッチフレーズ)を検討する(WGで継続検討)
- ・市民を中心に人数制限を設けずに募集する(市復興ニュースまたはチラシ等で市民全戸周知)ほか、ワーキングメンバーによる直接的声かけも行う

4. 第1回市民協働ワークショップにおける主なご意見

日時:平成27年10月20日(火)18:30~21:00
会場:陸前高田市役所 4号棟 第6会議室
参加者:市民を中心とした51名(一般公募者数)
内容:「第1回公園について知ろう」を主題として、高田松原津波復興祈念公園や関連事業の説明を行った上で、自由に意見交換を行った。



■主な意見

- ＜陸前高田らしさ＞ 高田らしさを活かした公園にしたい(海とのつながり、歴史文化等)。
- ＜市民の利用＞ 市民生活に根ざした、市民が日常的に利用しやすい公園にしたい。
- ＜祈りの場＞ 祈りの方向のとらえ方は人それぞれ異なる。／浸水区域に設けるのは疑問。
- ＜築山＞ 景観的にはあった方が良い。空間を仕切るだけであれば築山でなく植栽で十分。
- ＜安全確保＞ 浸水区域内に公園を設置することは疑問。人が集まる施設はせめて浸水区域外に設置すべき。
- ＜一時避難＞ 万一逃げ遅れた場合の避難場所(タワー等)はあった方が良い(特に高齢者・身障者対応)。
- ＜避難方法＞ 車は大事な財産なので、車での避難も考えるべきではないか。
- ＜震災遺構＞ 遺構はできる限り現状のまま保存したい。／複数残すことの意義が分からない。
- ＜教訓の伝承＞ 東日本大震災の教訓を、後世まできちんと伝えられるような施設としたい。
- ＜伝承施設＞ リアルな体験ができる施設としたい。／一本松記念館等の他施設との役割分担が必要。
- ＜高田松原・海岸＞ マツ林の再生過程を楽しむ。／元の風景や利用環境(海水浴、散策等)を再生してほしい。
- ＜植栽＞ 高田が北限の種、高田の農業に関連ある種、花が楽しめる種などを植栽してはどうか。
- ＜交流・地域活性＞ 国内外から多くの人を訪れ、観光や経済、市民交流などの活性につながる公園にしたい。
- ＜市街地との連携＞ 公園ばかりに人が集まるのではなく、そこから市街地へ人が流れるような工夫が欲しい。
- ＜管理運営＞ 参加体験型のイベントを開催する。／公園内への民間の出店、公園による雇用創出など。

5. 第2回協働体制検討ワーキンググループにおける主なご意見

日時:平成27年12月10日(木)18:30~21:00

会場:陸前高田市役所 4号棟 第4会議室

出席者:広田幹事、五味副幹事、阿部委員、岡本委員、菅野委員、熊谷委員、種坂委員、村上委員、吉田和子委員、吉田裕委員、渡辺委員



○第2回市民協働ワークショップについて

- ・より幅広い参加を得るため、平日の夜・休日の昼の2回開催(平成28年1月27(水)、1月31(日))とする。
- ・第1回ワークショップで寄せられた意見の状況等も踏まえ、下記4つのテーマを設定し、テーマ別に議論を深める。

<テーマ1>高田松原の利用のリスク軽減

...高田松原の利用と、利用にあたってのリスクを軽減するための方策

<テーマ2>利活用(教訓の伝承)

...震災の記憶や教訓を伝承していくための公園の整備や利活用のあり方

...震災遺構の保存・利活用のあり方

<テーマ3>利活用(レクリエーション・交流)

...公園内の環境を活かした利活用方策

...来園者との交流、中心市街地との連携を図るための方策

...市民に親しまれる、市民が利用しやすい公園のあり方

<テーマ4>植栽・自然再生

...公園内の植栽や、市民などが参加した植栽活動のあり方

...水辺などの自然再生や利活用

6. 第2回市民協働ワークショップにおける主なご意見

日時:平成28年1月27日(水)18:30~21:00

1月31日(日)13:30~16:00

会場:陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

参加者:1月27日26名、1月31日22名、延べ48名(一般公募者数)

内容:「第2回どんな利活用ができるだろう?」を主題として、高田松原津波復興祈念公園の基本設計の検討状況等の説明を行った上で、4つのテーマに分かれて意見交換を行った。



テーマ1:高田松原の利用のリスク軽減

<津波規模の想定> 想定する津波規模の設定は難しい/避難に要する時間を再確認すべき/以前の津波を基準に考えるべき

<避難施設> 避難タワーやシェルターの設置/避難用の船の設置/ヘリポートの設置

<避難ルート> 国道45号へ向かう古川沼の横断橋/国道45号の渋滞を防ぐ対策(ゲート等で強制的に)/国道45号に立体横断施設を設置/
気仙川の横断は避難ルートにしない/緊急車両の通れる幅員確保

<避難サイン> 避難路を色や光、植栽で表示/花火等で危険を伝達/海拔高度や避難距離を表示/立体避難地図の設置

<車での避難> 車での避難は避けるべき/距離的に車でないと避難が困難/車での避難訓練を実施して検証

<要介護者への対応> 身体障がい者用の駐車スペースを確保/入園の意思確認の工夫(チケット等)

<ソフト対策> 危険な場所であることを周知するための工夫(海の存在、公園の広さ等)/自己責任のもとでの立入(高台から離れたエリアについて)/避難ルールづくり(土地を知るお年寄りや避難経験者へのヒアリング)/地域で避難マップを作成、来園者へ周知/毎日避難訓練を行う

テーマ2:利活用(教訓の伝承)

<誰に> 次世代の子供たち/次に津波のリスクがある地域の人/津波を経験していない人/災害のリスクを抱えている人/修学旅行生

<何を> 命の大切さ/地元の人にとって見ることが辛い津波の体験/復興の経過とまちや住民意識の変化/目に見えない市民の感情/避難所や仮設住宅等での暮らしぶり/障がい者の死亡率が高かったこと

<どんなふうに> 展示を常に更新できるようにする/災害は日常の中で起こりうると実感できるよう/情報収集や研修が行える施設に

<震災遺構> 災害のダメージが理解できるものは残しておきたい/雨ざらしで痛んで震災のダメージと分からなくなってしまうのなら残す意味がないのでは/二次災害が起こらないことが必須/その場で厳かな気持ちになれる見方や伝え方/希望者だけでも中に入れるような手直しを/中の様子が分かるカメラの設置

6. 第2回市民協働ワークショップにおける主なご意見

テーマ3:利活用(レクリエーション・交流)

〈市民の利用する公園〉 日常的に使う場所は市街地に近い場所に／子供を遊ばせる場所を早期に／車道と交錯しない遊歩道・ランニングコース／市内各所の公園・施設(野外活動センター等)との役割分担／駐車場の充実／使いやすく維持管理がしやすい施設

〈市街地との連携〉 公園内で完結しない利用形態(市街地での宿泊・飲食などと連携した取り組み)／市街地の商業者も参加した検討／公園内施設で市街地の魅力発信(スマホ等の活用)／公園と市街地を巡る交通システム・乗り物、ストーリー性のある周遊ルート

〈地域の参加〉 地域事業者が優先して公園内に出店できる仕組み／公園管理への地元企業の参加

〈市外からの来園者・リピーター確保〉 県内被災自治体の情報発信ブース／がれきやモザイクアート・植樹等の継続参加型イベント／被災前からの高田の歴史文化の紹介／修学旅行生の受入／地場産食材を使った飲食／スポーツ施設の充実／特定のスポーツに特化する／釣り・カヤック等の水辺の利用／子供が行きたくなる施設等の整備／花火、マラソン、ロックフェス等の大規模イベントの開催／津波以外の特色も必要

テーマ4:植栽・自然再生

〈高田らしさ〉 高田松原の復活／ツバキ・ツツジ・チャノキ(気仙茶)・ヒカミサンペニヤマボウシなど高田らしい植栽／リンゴ・牡蠣・ワカメ・たかたのゆめなど特産品の販売／震災前の松原にあったハマナス等の復活／高田松原のDNAをもつマツ苗植栽

〈収穫の楽しみ〉 収穫したハーブティーなどを飲める場所を／ツバキ油の活用・実の換金／松原でキノコの収穫

〈水辺の利活用〉 湿地の環境学習施設／シジミがとれる古川沼に／釣り堀・カキ小屋／噴水を設置し水質浄化と観光に／海水浴の復活／恋人の聖地づくり／白鳥が憩う沼にする

〈維持管理・市民参加〉 灌水用の水源確保／松葉を肥料に／年間の維持管理を平準化できる植栽計画／来園した観光客が気軽に参加できる維持管理プログラム／ヤギによる除草／学校との連携／市民の手でマツ苗の植樹を／花や農業・漁業など専門家に協力・支援してもらえる仕組みづくり／園芸講座等の学びの場／公園内で活動する人たちの交流の場

〈その他〉 キャンプ・バーベキューがしたい／木材など自然素材を使った公園づくり／季節ごとに花を楽しめる公園／潮風に耐える品種を植えるなど適材適所の植栽／陸前高田市と交流のある都市に関わる樹木の植栽／昔のように花見ができる桜の復活

7. 第3回協働体制検討ワーキンググループにおける主なご意見

日時:平成28年3月16日(水)18:30~21:00

会場:陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

出席者:広田幹事、五味副幹事、阿部委員、石川委員、磐井委員、岡本委員、菅野委員、熊谷委員、種坂委員、吉田和子委員、吉田裕委員、渡辺委員
(空間デザイン検討委員会:篠沢委員長)



○市民協働の取り組みの実現に向けた、当面の検討の方向性、課題等について意見交換。

○下記のような意見を受けて、次回も継続して具体的な取り組みのあり方を議論することとした。

- ・ 国県市が整備する各エリアで、一体的な管理運営を行うことが必要。
- ・ 市民が署名等誘致活動を行い実現した公園なのだから、市民が管理運営に協力するのは当然（トイレ掃除や草刈り等できることを協力すれば良い）。
- ・ 具体的な公園の管理運営体制や公園の絵姿が見えてこなければ、具体的な議論や市民協働のイメージがしにくい。
- ・ 例えば野球場を利用したい人が自主的に集まって何ができるか議論し、実行に移すなど、簡単なことから始めれば良い。
- ・ 管理運営等に協力した市民や団体に対して、インセンティブ（例えば野球場などの有料施設の料金減免等）があればよい。
- ・ ボランティア的な活動（無報酬）だけでなく、県管理道路の草刈りのように管理運営の一部を有償で請け負うような取り組みがあっても良い。
- ・ 公園の管理運営を地域の雇用につなげるための検討、議論も必要。
- ・ 持続可能な公園運営とするためには、まずは基本的な公園の管理運営体制を行政が確保し、その上でプラスアルファの部分を市民協働に期待してはどうか。
- ・ 市民協働を推進するには、活動に見合ったサポート（資金援助も含む）が必要。

第1回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

～ 公園について知ろう ～

平成27年10月20日開催

県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。平成27年10月20日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするため、様々なご意見をお聴きする「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第1回 公園について知ろう～」を開催しました。

ワークショップには**中学生から80歳代までの幅広い世代の方々、総勢約80名にご参加いただき**、全9班に分かれて、基本計画に関する質疑や、どのような公園にしたいかなど意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容

1 <基本計画の概要説明>

ワークショップの開催にあたり、平成27年8月21日に策定公表した「高田松原津波復興祈念公園 基本計画」について、公園の基本理念・基本方針や空間構成、また**避難計画や公園内に残されている震災遺構等について説明**を行うと共に、公園に関連する復旧・復興事業として、**第一線堤・第二線堤の復旧、高田海岸の再生、高田松原の再生について説明**を行いました。

2 <グループワークショップ>

その後、班毎に自己紹介を行い、**復興祈念公園について思っていることや公園の説明を聞いて感じたこと。また、基本計画に対する疑問等**について意見交換を行いました。

3 <意見発表>

最後に、それぞれのグループで出された意見を、グループ毎に発表者を決め発表を行いました。主な意見は次ページに示したとおりです。



■第1回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

- <陸前高田らしさ> 高田らしさを活かした公園にしたい（海とのつながり、歴史文化等）。
- <市民の利用> 市民生活に根ざした、市民が日常的に利用しやすい公園にしたい。
- <祈りの場> 祈りの場は静かで行きやすい場所がよい。／祈りの方向のとりえ方は人それぞれ異なる。
- <築山> 景観的にはあった方がよい。／空間を仕切るだけであれば築山でなく植栽で十分。
- <安全確保> 人々が命を落とすことのないような公園を作ってほしい。／浸水区域内に公園を設置することは疑問。人が集まる施設はせめて浸水区域外に設置すべき。
- <一時避難> 万一逃げ遅れた場合の避難場所（タワー等）はあった方がよい（特に高齢者・身体障害者対応）。
- <避難方法> 車は大事な財産なので、車での避難も考えるべきではないか。
- <震災遺構> 遺構はできる限り現状のまま保存したい。／複数残すことの意義が分からない。
- <教訓の伝承> 東日本大震災の教訓を、後世まできちんと伝えられるような施設としたい。
- <伝承施設> リアルな体験ができる施設としたい。／一本松記念館等の他施設との役割分担が必要。
- <高田松原・海岸> マツ林の再生過程を楽しむ。／元の風景や利用環境（海水浴、散策等）を再生してほしい。
- <植栽> 高田が北限の種、高田の農業に関連ある種、花が楽しめる種などを植栽してはどうか。
- <交流・地域活性> 国内外から多くの人々が訪れ、観光や経済、市民交流などの活性化につながる公園にしたい。
- <市街地との連携> 公園ばかりに人が集まるのではなく、そこから市街地へ人が流れるような工夫が欲しい。
- <管理運営> 参加体験型のイベントを開催する。／公園内への民間の出店、公園による雇用創出など。



開催日：平成27年10月20日（火）
開催時間：18時30分から21時00分
開催場所：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室
参加人数：約80名



第2回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

～ どんな利活用ができるだろう?～

平成 28 年 1 月 27 日、31 日開催

県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。平成 28 年 1 月 27 日、31 日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするため、様々なご意見をお聴きする「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第2回 どんな利活用ができるだろう?～」を開催しました。

今回のワークショップは、より多くの方々に参加いただけるよう、平日の夜と休日の昼の2回開催しました。ワークショップには、**中学生から70歳代までの幅広い世代の方々、延べ48名にご参加いただき**、テーマ毎に分かれて意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容

1 <全体説明>



本公園のこれまでの検討経緯、第1回市民協働ワークショップの結果概要、公園の基本設計の検討状況等について説明を行いました。

2 <テーマ別意見交換>



その後、4つのテーマにわかれて意見交換を行いました。

3 <意見発表>



最後に、各グループで出された主な意見の発表を行い、全テーマの議論の内容を全員で共有しました。

<意見交換のテーマ>

- テーマ1 高田松原の利用のリスク軽減
- テーマ2 利活用（教訓の伝承）
- テーマ3 利活用（レクリエーション・交流）
- テーマ4 植栽・自然再生



開催日：平成28年1月27日（水）、31日（日）
開催時間：27日 18時30分から21時
31日 13時30分から16時
開催場所：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室
参加人数：延べ48名（27日26名/31日22名）

■第2回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

テーマ1：高田松原の利用のリスク軽減

- <津波規模の想定> 想定する津波規模の設定は難しい/避難に要する時間を再確認すべき/以前の津波を基準に考えるべき
- <避難施設> 避難タワーやシェルターの設置/避難用の船の設置/ヘリポートの設置
- <避難ルート> 国道45号へ向かう古川沼の横断橋/国道45号の渋滞を防ぐ対策（ゲート等で強制的に）/国道45号に立体横断施設を設置/気仙川の横断は避難ルートにしない/緊急車両の通れる幅員確保
- <避難サイン> 避難路を色や光、植栽で表示/花火等で危険を伝達/海拔高度や避難距離を表示/立体避難地図の設置
- <車での避難> 車での避難は避けるべき/距離的に車でないと避難が困難/車での避難訓練を実施して検証
- <要介護者への対応> 身体障がい者用の駐車スペースを確保/入園の意思確認の工夫（チケット等）
- <ソフト対策> 危険な場所であることを周知するための工夫（海が存在、公園の広さ等）/自己責任のもとでの立入（高台から離れたエリアについて）/避難ルールづくり（土地を知るお年寄りや避難経験者へのヒアリング）/地域で避難マップを作成、来園者へ周知/毎日避難訓練を行う

テーマ2：利活用（教訓の伝承）

- <誰に> 次世代の子供たち/次に津波のリスクがある地域の人/津波を経験していない人/災害のリスクを抱えている人/修学旅行者
- <何を> 命の大切さ/地元の人にとって見るのが辛い津波の体験/復興の経過と町や住民意識の変化/目に見えない市民の感情/避難所や仮設住宅等での暮らしぶり/障がい者の死亡率が高かったこと
- <どんなふうに> 展示を常に更新できるようにする/ 災害は日常の中で起こりうる実感できるよう/情報収集や研修が行える施設に
- <震災遺構> 災害のダメージが理解できるものは残しておきたい/雨ざらして痛んで震災のダメージと分からなくなってしまふのなら残す意味がないのでは/二次災害が起らないことが必須/その場で厳かな気持ちになれる見方や伝え方/希望者だけでも中に入れるような手直しを/中の様子が分かるカメラの設置

テーマ3：利活用（レクリエーション・交流）

- <市民の利用する公園> 日常的に使う場所は市街地に近い場所に/子供を遊ばせる場所を早期に/車道と交錯しない遊歩道・ランニングコース/市内各所の公園・施設（野外活動センター等）との役割分担/駐車場の充実/使いやすく維持管理がしやすい施設
- <市街地との連携> 公園内で完結しない利用形態（市街地での宿泊・飲食などと連携した取り組み）/市街地の商業者も参加した検討/公園内施設で市街地の魅力発信（スマホ等の活用）/公園と市街地を巡る交通システム・乗り物、ストーリー性のある周遊ルート
- <地域の参加> 地域事業者が優先して公園内に出店できる仕組み/公園管理への地元企業の参加
- <市外からの来園者・リピーター確保> 県内被災自治体の情報発信ブース/がれきやモザイクアート・植樹等の継続参加型イベント/被災前からの高田の歴史文化の紹介/修学旅行者の受入/地場産食材を使った飲食/スポーツ施設の充実/特定のスポーツに特化する/釣り・カヤック等の水辺の利用/子供が行きたくなくなる施設等の整備/花火、マラソン、ロックフェス等の大規模イベントの開催/津波以外の特色も必要

テーマ4：植栽・自然再生

- <高田らしさ> 高田松原の復活/ツバキ・ツツジ・チャノキ（気仙茶）・ヒカミサンベニヤマボウシなど高田らしい植栽/リンゴ・牡蠣・わかめ・タカタノユメなど特産品の販売/震災前の松原にあったハマナス等の復活/高田松原のDNAをもつマツ苗植栽
- <収穫の楽しみ> 収穫したハーブティーなどを飲める場所を/ツバキ油の活用・実の換金/松原でキノコの収穫
- <水辺の利活用> 湿地の環境学習施設/シジミがとれる古川沼に/釣り堀・カキ小屋/噴水を設置し水質浄化と観光に/海水浴の復活/恋人の聖地づくり/白鳥が憩う沼にする
- <維持管理・市民参加> 灌水用の水源確保/松葉を肥料に/年間の維持管理を平準化できる植栽計画/来園した観光客が気軽に参加できる維持管理プログラム/ヤギによる除草/学校との連携/市民の手でマツ苗の植樹を/花や農業・漁業など専門家に協力・支援してもらえる仕組みづくり/園芸講座等の学びの場/公園内で活動する人たちの交流の場
- <その他> キャンプ・バーベキューがしたい/木材など自然素材を使った公園づくり/季節ごとに花を楽しむ公園/潮風に耐える品種を植えるなど適材適所の植栽/陸前高田市と交流のある都市に関わる樹木の植栽/昔のように花見ができる桜の復活